

令和4年度 東大阪大学柏原高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

学園訓（萬物感謝・質実勤労・自他敬愛）の具現を図り、知力の充実とともに豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。

- 中学生やその保護者に行ってみたい・行かせてみたいと興味を持ってもらえる学校
- 教育活動全般を通じて、自尊感情（自己肯定感や有用感）が育てられる学校
- 自分らしさを発見・追求し、自分の進路を切り拓いていける学校
- とことん生徒と向き合い、面倒見の良い教職員集団が形成される学校
- 生徒にとっても、保護者にとっても「来てよかった」と思える学校

2 中期的目標

1. 生徒募集活動の推進と効果的な広報活動

(1)改革プロジェクトと新コースの立ち上げ

- ・週1回のペースで改革プロジェクト会議を開催し、短期集中で入学生徒数増加に向けた具体的な提案を行う。
- ・本校の特色の一つであるスポーツコースを発展させ、時代のニーズに合った新コース「キャリアスポーツコース」を立ち上げる。

(2)キャリアアップコースの再編成

- ・キャリアアップの特色を明確にして広報する。
- ・地元企業や地場産業と連携したインターンシップ制度を取り入れるなど、就職系列を強化し、多様なニーズに応える。

(3)調理・美術コースの広報

- ・地元の中学生を中心に定期的な体験授業を実施する。
- ・東大阪短大や連携専門学校、大阪芸術大学等への進学実績をしっかりと広報する。
- ・調理コースでは、食堂と連携した弁当販売や地元飲食店への職業体験など、新たな企画を実施する。
- ・美術コースでは、本校主催のコンテストや夏休みこども体験教室を実施するなど本校を知ってもらう機会を増やす。また作品の展示場などを設けて見ってもらえる機会も増やしていく。

(4)自分らしさを追求できる選択授業・専門教科の充実

- ・学習指導要領の改訂に伴い、専門コースはより特化したカリキュラムに変更する。
- ・キャリアアップやキャリアアシストの選択授業の充実を図る。

(5)アドバンストコース、国際クラスの進学実績向上

- ・有名大学への進学実績を向上させ、広報活動につなげる。
- ・長期休業中の補習体制を確立し、一人ひとりのニーズに合った補習を実施する。

(6)ホームページのバージョンアップ

- ・ホームページをバージョンアップして、動画等を多く取り入れ、本校の特色、楽しさが伝わるようにリニューアルする。
- ・広報の主体を紙ベースからホームページ等のSNS中心に切り替え、日々学校生活の楽しさやクラブの様子・戦績等を更新していく。また各コースの進路情報も詳しくタイムリーに広報していく。

(7)入試広報活動の工夫

- ・入試広報部による中学校訪問の在り方を変えていく。
- ・八尾市・柏原市・藤井寺市等、地元中学校へ特化した生徒募集の在り方を検討する。
- ・在校生が前面に出て、本校のよさや楽しさをアピールできるオープンスクールにする。

2. すべての生徒が夢中になって学べる授業づくり

(1)ICT教育の充実

- ・1・2年生全員にタブレット端末を導入。個別最適な学びと協働的な学びをめざす。
- ・実技を除くすべての教科で毎時間タブレットの活用を義務付ける。
- ・毎時間継続してタブレットを活用するために、学習アプリ「Monoxer」を導入し、時間を決めて課題に取り組ませる。
- ・すべての教科でタブレットを活用した公開授業や研究授業を行い、教職員の資質向上に努める。

(2)新学習指導要領実施に伴い、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）をめざす。

- ・ICTやペア学習・グループ学習の活用
- ・自分の考えをまとめ、発表・表現する力の育成
- ・自尊感情を育てる授業
- ・観点別評価と指導の一体化

3. 生活指導の徹底と生徒会活動の充実

(1)問題行動の未然防止

- ・挨拶、身だしなみ、頭髪、遅刻、欠席等の「凡事徹底」
- ・「報告・連絡・相談・確認」の徹底

(2)迅速な対応と粘り強い指導

- ・問題事象への迅速な対応と外部関係機関との連携

(3)生徒会活動の充実

- ・生徒会活動の活性化により、生徒の主体的な活動を育成する（楽しい学校生活へ）

- ・自己有用感を高め、自治能力を育成する（例：スマホの約束事、コロナ禍の中での昼食、楽しい行事の企画等）
- ・時代や生徒の実情に合わないもの、合理性を欠く校則の見直し

4. 生徒サポートの充実

- (1) 気になる生徒（不登校、虐待、問題行動、障がい等）への適切な指導、効果的な対応
- (2) 不登校や転退学の防止・減少
- (3) 学び直しの体制づくり

5. 国際クラスの充実

- (1) 日本語教育の充実
- (2) 有名大学進学に向けた学力保障
- (3) 日本人と留学生の相互交流を基盤とした多文化共生教育の推進
- (4) 国際交流センターとの連携強化

6. 進路指導の充実と進学実績の向上

- (1) 多様な進路（就職・専門学校・大学等）への対応
- (2) 就職率 100%の継続、進路未定者「0」に向けた進路指導
- (3) 東大阪大学(短期大学部含む)への内部進学者の確保→東大阪大学との連携強化
- (4) アドバンストコースの指導体制・内容の充実を図り進学実績の向上

3. 学校教育自己診断調査の結果と分析

《生徒》

- 「学校に来るのは楽しいですか」の肯定的評価は、昨年度より少し上昇して 84.8%になった。
- 「本校には他の学校にない特色があると思いますか」の肯定的評価は、全体では昨年度より少し上昇して 79.6%になったが、3年生は僅かだが低下している。学年が上がるにつれ肯定的評価が低くなる（1年 83.6%→2年 72.5%→3年 72.5%）ことは今後の課題である。
- 「将来の夢や希望、卒業後の進路を考えて学校生活を送っている」生徒は、全体で 84.7%あり、学年が上がるにつれて上昇している。（1年 81.5%→2年 83.2%→3年 89.4%）これは進路学習の成果と考えられる。
- 「授業を集中して受けている」と答えている生徒は、昨年度より全体では少し上昇して 80.8%になった。学年が上がるにつれ評価が高くなっていく（1年 78.3%→2年 79.3%→3年 84.8%）ことから、指導が徐々に浸透していくと思われる。
- 「授業はていねいで分かりやすく、楽しいと思いますか」や「先生は教え方や教材の精選等、授業の工夫をしていますか」、「授業で分からない事について質問しやすいですか」の肯定的評価は、いずれも 80%を超える高評価であるが、昨年度よりわずかに低下しており、授業に関してさらなる努力・工夫が必要である。
- 「授業で iPad が効率的に使用されている（1・2年）」「本校は ICT 環境の設備が推進されている（3年）」の肯定的評価は、昨年度より僅かに上昇したが 77.9%にとどまっている。ICT 教育の推進は、本校の重点課題の一つでもあるので、80%以上を目指したい。
- 「評価はテストの得点・提出物・態度等を含め総合的に行われていると思いますか」の肯定的評価は 92.2%あり、評価に仕方については理解・納得できていると思われる。
- 「相談や悩み事について話しやすいように配慮されている」や「担任の先生以外にも相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価は、いずれも 80%程度であるが、昨年度より評価が下がっていることが気になる。相談しやすい雰囲気・体制を作らなければならない。
- 「先生は、自分の良いところを認めてくれますか」の肯定的評価 88.7%、「いじめや差別、偏見をなくすための教育がなされていると思いますか」の肯定的評価は 85.0%と、本校の自尊感情を高める取り組みや人権教育の成果が出ていると考えられる。
- 「保健室は利用しやすいと思いますか」や「本校の施設・設備等の教育環境は充実していると思いますか」の肯定的評価は、いずれも 88%程度で高い評価を得ている。さらに充実したものになるよう継続して努めていくと共に、施設・設備等は計画的に充足させていく。
- 「部活動は楽しく充実していますか」の肯定的評価は、77.9%で決して低い値ではないが、「スポーツの柏原」と言われる本校にとっては、部活動の在り方を見直し、更なる高みを目指したい。
- 「食堂は充実していて利用しやすいと思いますか」の肯定的評価は、昨年度より大幅に上昇して 88.6%になった。思い切って業者を切り替えたことがよかった。
- 「服装・頭髪・マナー等の指導がきちんと行われていると思いますか」や「あなたは本校の規則を守っていると思いますか」、「本校では、生活規律や学習規律等、基本的な生活習慣の確立に力を入れていると思いますか」、「あなたは、挨拶ができていますか」の肯定的評価は、いずれも 90%を超えており、本校の強みである生徒指導の凡事徹底が生きていると考えられる。今後は良い面は残しつつも、時代のニーズに合わせた校則や指導方法を検討していきたい。

《保護者》

- 「ご子息は充実した学校生活を送っていると思いますか」の肯定的評価は 85.5%あるが、昨年度と比べると少し低下している。
- 「生徒の進路や興味に応じた教育課程が実施されていると思いますか」の肯定的評価は、昨年度より少し上昇して 79.0%になった。
- 「授業が楽しくわかりやすいと言っていますか」の肯定的評価は 66.4%であり、80%を超える生徒の回答と乖離がある。原因を追究する必要がある。一方で自由記述欄に「勉強が苦手だった子が勉強がわかりやすいと言っています。」という意見をいただいた。
- 「本校のホームページや SNS 等で教育活動に関する状況提供が十分なされていると思いますか」の肯定的評価は、昨年度より少し上昇して 73.9%になった。「教員は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていると思いますか」の肯定的評価は 76.1%あるが、昨年度より少し低下している。自由記述欄で「保護者が求めている学校や生徒たちの情報があまり入ってこないように思います。もっと肝心な情報を流してほしいです。」というご意見をいただいた。情報提供や家庭連絡の在り方について、再度検討して教職員で共有していきたい。
- 「学校の生活指導の方針は、保護者に示されていますか」や「学校の生活指導の方針に共感できますか」の肯定的評価は、いずれも 70%程度であり、昨年度より少し低下している。生活指導の方針を丁寧に発信していく必要がある。一方で「服装・頭髪・マナー等の生活指導はきちんと行われていると思いますか」の肯定的評価は 90%を超えており、高評価を得ている。
- 「本校の施設・設備等の教育環境は充実していると思いますか」の肯定的評価は 88.4%あり、生徒と同様に高評価である。
- 「ご子息は iPad をご家庭で使用していますか」の肯定的評価は 66.3%にとどまり、更なる活用が必要である。
- 全体的に昨年度より肯定的評価が低下した項目が多い。原因を追究して改善していきたい。

《教職員》

- 「あなたは学校運営方針に基づき、教育活動を展開していますか」や「各分掌・組織で具体的目標・方針を立てて、学校教育目標達成に努めていますか」の肯定的評価は、どちらも88.5%で高評価であるが、昨年度より少し低下している。方針や目標の共有を徹底していく必要がある。
- 「コロナ禍における学校行事は精選されていると思いますか」の肯定的評価は、昨年度より大幅に上昇して92.3%になった。感染対策をしっかりと取りながら、工夫してできる行事を行うことができた。
- 「本校の教育活動には、他校にない特色があると思いますか」（肯定的評価61.5%）、「本校は進路指導や学習到達度に応じたクラス編成ができていると思いますか」（肯定的評価76.9%）、「本校は多様な選択科目を設定し、興味関心に応じた特色ある教育課程が編成できていますか」（肯定的評価76.9%）は、昨年度より大幅に肯定的評価が上昇している。さらに本校の強み・特色を伸ばしていきたい。
- 「あなたの板書は、生徒にとって見やすく、理解しやすいように気を付けていますか」（肯定的評価92.3%）、「あなたは生徒の理解度を確認しようとしていますか」（肯定的評価100%）、「あなたは十分な準備（教材研究）をして授業に臨んでいますか」（肯定的評価92.3%）と教職員の自己評価は高い。しかし、生徒の授業に対する肯定的評価は80%程度であり、再度授業の在り方を見直し、工夫が必要である。
- 「あなたは授業以外（クラス運営・HRなど）でiPadを使用したいですか」の肯定的評価は、昨年度よりさらに上昇して84.6%になった。アンケートやプレゼン作成など、様々な活用が増えてきている。
- 「あなたは生徒が食堂に満足していると思いますか」の肯定的評価は、昨年度15.4%から今年度96.2%に急上昇しており、生徒とともに高評価になった。食堂と連携してさらに充実できるように努めていきたい。
- 「進路指導室は生徒にとって利用しやすいものになっていると思いますか」（肯定的評価96.2%）、「進路講演会や進路ガイダンスは効果的なものになっていると思いますか」（肯定的評価100%）、「模試や各種検定は効果的に実施されていると思いますか」（肯定的評価100%）など、進路関係の肯定的評価は昨年度より上昇して充実しつつある。さらに生徒や時代のニーズに合った進路指導・進路教育を目指したい。

4. 学校評議員会からの意見 *委員名簿は別項に記載（7/5に意見交換会実施）

- 生徒への設問のほとんどの項目で、高い評価を得ていることは素晴らしい。生徒の期待に応える教育が展開されているゆえんであろう。また食堂の項目では評価が飛躍的にアップしている。様々な指摘をしっかりと受け止めて、食堂業者を交代させた英断が正しかったことを物語っている。極めて低評価の項目が全くなく、少し低い項目が2～3目につく程度であることも大いに評価できる。
- 保護者への設問では、相対的に厳しい評価結果ではないだろうか。保護者から見た子息の授業への取り組み方、家庭での学習の在り方、進路指導等、教員の捉え方とは評価結果が大きく乖離しているように見える。学校からの情報発信や指導方針等についての丁寧な説明等についても、教員はできていると捉え、保護者は不十分と捉えていることが多いようである。機会あるごとにホームページによる発信や担任・クラブ顧問による保護者とのきめ細かいコミュニケーションを図り、学校の教育方針を理解していただきつつ、継続的に協力を求め、しっかりと連携を図っていく必要があるように思われる。
- 「学校は楽しい」「このまま3年間過ごしたい」「今後も頑張りたい」等の生徒の意見について。約10年前の平成26年度調査では、1・2年生共に6割前後だった「肯定」が、今回は8割を大きく超えた回答（1年88.7%→3年86.2%）である。2年ではやや低いものの「よい高校」として3年間を過ごしているようだ。中には「教師により指導のアンバランス」との意見が書かれていた。一層の教員間の共通理解を期待したい。
- 平常の学習への調査では、1年と3年では肯定が8割を超え前向きに取り組んでいる。「わからないことを先生に質問・・・」では、10年前の約6割から今回は9割超のほぼ全員が前向きである。学習評価は1年生から3年間「テストの点、提出物、態度等総合的」に評価されていることを十分理解できている。
- 生徒・保護者・教員の自己評価は全体としておおむね好評で、学校教育の取り組みはしっかりとされていると思われる。ただ、生徒数が伸び悩む原因の一端かと思われる結果もあった。特に気になったのは、「授業はていねいで分かりやすい」の質問項目で、R3・R4年度とも生徒は81.6%が肯定評価をしているのに、生徒が保護者へ報告すると、20%近く肯定評価が下がってしまっていることである。原因を検討ください。
- 生徒の学習への取り組み、教師の授業方法は、高評価で教員の日ごろの学習指導への取り組みは評価できる。生徒指導・人権教育・いじめの取り組みも生徒・教員共に高い評価であり、それなりの効果が出ていると思われるが、保護者の結果が生徒・教員と比べると肯定評価が低いのは少し気になる。

5. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
効果的な広報活動の推進と	生徒募集活動	<ul style="list-style-type: none"> 改革プロジェクト会議を開催し、短期集中で入学生徒増加に向けた具体的な提案を行う。 本校の特色を活かし、時代のニーズに合った新コースを立ち上げる ホームページをバージョンアップして、本校の特色、楽しさが伝わるようにリニューアルする。 入試広報部を改革して、中学校訪問やオープンスクールの在り方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 改革プロジェクト会議の実施回数。 具体的な提案ができたか。 新コースを立ち上げられたか。 ホームページに動画を多く取り入れるなどして情報発信ができたか、学校教育自己診断調査（保護者）の肯定的評価を71.4%（R3）→75%以上を目指す。 入試広報部の改革、広報活動の工夫ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月までに21回のプロジェクト会議を開き、具体的な提案をすることすることができた。 新コース「キャリアスポーツコース」を立ち上げることができた。初年度の入学者は目標の20名に達しなかった。来年度は25名以上を目指したい。 ホームページをリニューアルして動画も増やした。学校教育自己診断調査（保護者）の肯定的評価は73.9%だったので、来年度は75%以上を目指したい。 重点地域を決めて、メリハリのある中学校訪問ができつつある。オープンスクールは生徒中心で学校の楽しさが伝わるように工夫している。 全教職員で募集活動をする意識改革を行っている。
	入試広報活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 1,2年生全員にiPadを導入し、個別最適な学びと協働的な学びを目指す。 すべての教科でタブレットの活用を目指す。 学習アプリを導入し、毎時間継続してiPadを活用することを目指す。 iPadを活用した公開授業や研究授業を行い、教職員の資質向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断調査のiPadに関する項目の肯定的評価を、生徒、教員共に75%以上を目指す。 AI搭載の学習アプリ「Monoxer」を活用し、1年間で一人5千問以上の課題に挑戦する。 学期に1回以上、公開授業か研究授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的評価は77.9%で目標を達成できたが、教員の肯定的評価は69.3%に留まっている。全教科、全教員で活用できるようにさらに研修を進める。 「Monoxer」を活用して取り組んだ問題数は1年間で400万問以上、一人当たり1万問以上になった。全教科で取り組んだ成果であるが、さらに継続、発展させたい。 年4回の研究授業を行うことができた。
すべての生徒が夢中になって学べる授業づくり	ICT教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、身だしなみ、頭髪、欠席等「凡事徹底」の指導を行う。 生徒理解に基づいた厳しくも温かみのある指導をめざし、転・退学者を減少させる。 生徒会の活動や行事を増やし、生徒が楽しめるようにする。 時代や生徒の実情に合わない校則を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断調査の服装や頭髪等の指導について、肯定的評価を生徒、教員共に90%以上を目指す。 転・退学者を減少させることができたか。 生徒会行事を増やすことができたか。 校則を見直すことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 服装や頭髪等の指導についての肯定的評価は、生徒が90.6%、教員は92.3%で目標は達成できている。継続してよりよい指導を目指したい。 R3年度に比べ、転・退学者は少し減少した。さらに減少できるように手厚い指導を心がける。 文化祭での柏1グランプリや留学生歓迎会など生徒会主催の行事を増やすことができた。エコキャップの取り組みでは、地域から表彰された。 髪型や登下校の服装について、生徒の意見を取り入れて校則を見直すことができた。
生徒指導の徹底と生徒会活動の充実	問題行動の未然防止 生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流センターとの連携をさらに密にして、留学生の生活面、教育面での協力体制を強化する。 学年や生活指導、進路指導等各部署と連携して指導する。 日本人との相互交流を基盤とした多文化共生教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流センターとの役割分担をしっかりとしながら、生活面、教育面の両方から協力して指導できたか。 学校の各部署と連携して指導できたか。 日本人と交流する行事がどのくらいできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は役割分担があいまいなところがあったが、生活面、教育面の両方で協力して指導することができた。さらに連携を深めたい。 生徒指導事案では、国際クラス担当だけでなく学年・生徒指導と連携して指導することができた。 新型コロナの影響もあり交流が難しかったが、体育祭や文化祭、校外学習や修学旅行など一緒にできた行事もいくつかあった。さらに交流イベントを企画していきたい。
国際クラスの充実	国際交流センターや各部署との連携の強化 多文化共生教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路（就職・専門学校・大学等）に対応できるように、1年よりLHRや「総合的な探究の時間」、2年からは「進路探究」等の時間を活用して、進路ガイダンスやポスターセッション、就職勝道場など進路に関する講座や体験を増やし、進路選択に役立てる。 各種検定や興味のある講座など、進路選択に役立つ選択講座を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断調査の進路指導に関する項目で、生徒・教員共に肯定的評価が80%以上を目指す。 選択講座に関する学校教育自己診断調査で肯定的評価80%以上を目指す。 就職を希望する生徒の就職内定率100%の継続を目指す。 東大阪大学、短期大学部への内部進学者10名以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導に関する肯定的評価は、生徒が84.6%、教員は100%であり、多彩な進路指導の成果が出ている。 選択講座に関する教員の肯定的評価は76.9%であった。生徒の興味関心に応じたり、進路選択に役立つ選択講座を精選していく必要がある。 就職内定率100%を維持することができた。 東大阪大学、短期大学部への内部進学者は11名で目標は達成できた。さらに内部進学者を増やしていきたい。
進路指導の充実	多様な進路への対応			

別項 令和4年度 学校関係評価委員会名簿

	名前	役職
1	佐伯 勇	村上学園 理事
2	金治 延幸	村上学園 参与
3	筒井 宣興	村上学園 理事
4	吉岡真知子	村上学園 東大阪大学 学長